

第4号様式（第8条関係）

議 事 録

会議名	令和7年度第2回文化財保護委員会会議		
日 時	令和8年3月30日（月）午後1時15分から	開催形態	公開
場 所	役場分庁舎会議室（電算会議室）		
出席者	委員：杉崎清、玉園篤敏、佐原慧、藤井孝、北條芳隆 事務局：花山教育長、高橋教育次長、岡野課長、小林主査 傍聴者2名		
議 題	・報告事項 (1) 令和7年度文化財保護事業報告について (2) 令和8年度文化財保護事業計画について ・協議事項 (1) 近代文化財調査について		
議 事	1. 開会 2. あいさつ 北條会長 花山教育長 以後の議事進行は会長が行う。 3. 報告事項 (1) 令和7年度文化財保護事業報告について 事務局より資料1のとおり説明 委員) 大蔵東原遺跡について、子ども達にも見せたい。近くにあるので良い機会である。 事務局) 今回は地元の見学会である。地元小学校には情報を提供している。第2次調査時には全町的な見学会も考えたい。 会長) マイスターネット主催の講演は参加者110人が多いが何か理由があるのか。 事務局) 6月と11月の2回あわせての数字であり、1回は50～60人ほどである。また、地元の新聞等で取り上げられたためと思われる。 委員) 「高座のころ」という言葉を寒川町の標語のように使ってい		

るが、何なのかと疑問に思うところがある。寒川の優しい心だと結び付ける、歴史や文化の関係から言うと「やさしい」とか時代の象徴として使って良いのか？どのように「高座」という言葉を大事にするようになったのか？

次長) 元々寒川を皆さんに知っていただくということで、町のブランド力を発信していこうという発想で、寒川がふりかえってみると高座、「たかくら」という歴史的背景を上手に使わせていただくという発想でブランドイメージのようなマークなどを作って現在に至るところがありますが、ご指摘のとおりそれが元の意味合いから 100% イコールといわれると、違うところも確かにあると思いますが、寒川に皆さんお住まいになり、土地がら、心のありようから、やさしさという部分もあり、そこに結びつけていく、元の発想としてはそういうことだと思います。

委員) 「こうざ」ではなく「たかくら」と読んでしまう。「たかくら」というイメージの方が我々の年代は強い。高座が寒川のみとなってしまう、大事にするということであればそのイメージが違う気がする。「たかくら」というのは庶民からすると良いことではない、上の人がずらっと座っているような感じがして優しさは感じない。言葉の持つ意味を活かしてほしい。無理やり言葉をもってきて大事にしていけない感じがする。そのような意見はでないのか？

次長) そのような意見はあまり聞いたことは無いが、やさしさというのも大事だが、品格という言葉もブランディングの中で使っていますので、「たかくら」というと高い位置にあった片側みたいにとらえるとどうなのかなとは思いますが、寒川の皆さんとお話すると、単なる湘南ということではなく湘南の奥座敷で寒川神社が鎮座されているというプライドをもっているというお話はきいたことがある、単にやさしさというだけでなく、品格という面では歴史を尊重しているというところで捉えておりましたが、色々な捉え方があると思いました。

委員) 茅ヶ崎では「たかくら」といって一帯を広い意味であの言葉を大事にされている感じで、隣どおしで一方は「こうざ」一方は「たかくら」と言って矛盾している感じです。色々茅ヶ崎とは合同でやっているのだから、このような文化財に関係あることもお互い協議してその意味がしっかり残るように整合性をもってやっていただけると良いという感じがします。

会長) 藤井委員からこのようなご意見があったというところで閉めさせていただきます。

(2) 令和 8 年度文化財保護事業計画について

事務局より資料 2 のとおり説明

委員) 文化財整理作業ですが、民具とありますが保存状況、保存数はいかがか、先日テレビで博物館の収蔵品が満杯で処理にこまっているとあったが、寒川の状況はどうか。

事務局) 寒川も同様で、文化財学習センターで民具は展示兼というかたちで保存していますが、そちらもほぼ満杯で、寄贈についても大きいものや同じようなものはお断りしている状況です。収蔵されていないようなものをセレクトして寄贈していただいている状況、令和 7 年度は 2 件寄贈を受けました。

会長) 民具など、民族の専門家に見てもらおうと特徴もわかるということもあり、その辺は課題である。全般的には文化庁も保存活動を推進しながら、収蔵、特に民具関係が限界を超えている場合には、場合によっては今後処分も致し方なしという話など、この委員会に処分や破棄についての方針が報告されるという日がこないとも限らない、そんな予感もします。

事務局) 民具に限ったことではなく埋蔵文化財の土器等も破棄等の話が上がってくることはあると思う。文化財学習センター収蔵という部分ではほぼ満杯で隙をみつけて収蔵している。民具なども課題はあるがなるべく破棄という形にはしないようにしたいと思っている。

委員) 色々な事業について予算をつけておくことが必要、補助金にしても増やす努力をしないと、文化財を持っている人が自分のところで相当お金を出さないと改修できないとなると尻込みをしてしまう場合もある、町の方でもっと面倒をみるという体制ができていればそういう問題もおきず皆さん協力してくれると思う。現象がでてこないと予算をつけないというのではなく、予算をもっているからやって下さいというのも大事と思う。文化財について町民の皆さんも関心が無いから声があがってこない、議会でもあまり取り上げることはないですよね。岡田の方でも大山講の行事が終わりとなったが、このようなことも町の方でもっとやって下さいと呼びかけをし、補助金を出すなどすれば、もう少し頑張るってやるかということもあると思う。このような行事を継続できるように、あるいは増やせるようにしていく必要があると思う。

事務局) 前回の議会でもそのようなことに心配をされている議員もいた。予算を増やすということはこの場では言えないが、指定文化財の補助金要綱を変更し、補助率や上限をあげる、また現在修理にしか補助対

象になっていないので管理についても対応できるよう、もっと使いやすいような形にしていかなければいけないのかなと考えている。

会長) 大枠で言いますと、県、各市町の文化財活用計画などが策定、あるいは策定中、改定中だったりするが、そのような枠の中にこれらのことが該当するのであれば予算化できるのかなと思う。

委員) 貴船の方で講がなくなっただけで資料をあずかってもらえないかと連絡がきた。この方々はこれが文化財というイメージでなく普段の生活の中にある行事ととらえていて、それを年盤ですずっとやっていたが、やる人がいなくなって終了とするので持っていたものを預けてよいかと連絡がきた、預かりますとなったが、問題はそのような講等の団体の方々は伝統的民俗行事という認識でやっているわけではないので、そこが行政が保存しようという意思とやっている方々の意識がリンクしない。寒川の昔からの民俗的行事、講や寄合は消えていく、寒川の今を生きる人が知らないまま忘れ去られていくんだな、という現状を目のあたりにしている。難しい問題だが、例えば行政の方が、過去に町史の方で調査はしているが、無くならないように目をつけてもっと声をかけ定期的に調査をして保存しようというようなことを行政の方が働きかけをするシステムを作っていないと思う。

会長) 重要性わかるが、なかなか行政が積極的に調査に行くというのは難しい部分がある。当事者の方々は無形文化財、伝統行事だとかというイメージとは程遠い事項である。

委員) 全国紙ではあるが、地域の住民が文化財を守り続けるという記事がある。難しい部分はあるが、自主的にできるところは良いが、住民の活動を行政がバックアップする必要があると思う。それにはやはり予算が必要。教育委員会の予算の中でよく考えてもらおうとありがたい。

会長) 緊急を要する事例も無くはないと思う。個別具体的問題が把握できたら事務局になげかけることも必要と思った。今すぐに予算化は難しいと思うが。

事務局) 指定文化財であれば補助金等の制度があるが、指定以外の文化財だと制度もないので、どのような方法があるかは考えなければと思う。

会長) 地域のコミュニティで当たり前のことだったことが当たり前では無くなってきている。知らぬ間に講などが無くなっている。

委員) 者だけ残って地域で知らないのて教えてあげないといけない。寒川の歴史文化で縄文のイメージがついてきて良いと思うので、他の文化財にも波及し、石造物など意味がある、文化財であるという啓蒙活動

を広げていかないと、住民の方々にも文化財を守ろうという注意喚起をしないとそれがスタートしない、皆さんにそれが文化財だという活動を事業に組み込んでいただければと思う。

課長) 文化財伝統行事を若い方は知らないのではというのが問題かなと思う。文化財学習センターに小学生が見学に来てはくれているが、待っているだけでは遅いと思います。来年度文化財学習センター30周年を迎えるので啓発活動に力を入れていきたい。

4. 協議事項

(1) 近代文化財調査について

事務局より資料3のとおり説明。西寒川支線跡について今後も調査を継続、報告書を作成し、記念物として国登録や、町指定を目指したいことを説明。

委員) 聞いた話だと砂利採取を現在の相模鉄道、相鉄の前身の会社が行っていたがトロッコで運んでいた、鉄道の線路と、トロッコの線路の幅は違うかもしれないが、住んでいる方も相鉄関係の方が茅ヶ崎寒川は多い、相鉄の会社に資料が残っている可能性もあるのでは、そのような調査は実施するのか。

事務局) 研究会や専門的な方にききながら歴史的なことも調べていきたい。

会長) 来年度以降も継続ですね。旧国鉄関係の資料を調べればより解ると思う。

事務局) 来年度に関しては、鉄道保存会やボランティアの方と現地で現状何がどれくらいあるのかを調べていく予定。

北條会長) それでは今後の調査に関して了承としてよいか。

一同同意

会長) それでは調査に関して承認とします。

5. その他

以降議事進行は事務局

6. 閉会

藤井副会長

資 料	※ 資料 1 令和 7 年度文化財保護事業報告について 2 令和 8 年度文化財保護事業計画について 3 近代文化財調査について
議事録承認委員及び 議事録確定年月日	会長 北條 芳隆（令和 8 年 6 月 1 日確定）